

こんな経験ありませんか？

情報化、国際化や高齢化が進み、個人の価値観も多様化していますが、私たちのまわりの環境はそれらに対応できているのでしょうか？



特集1

みんなでき取り組むユニバーサルデザイン

パートナーシップで築く「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」

ユニバーサルデザイン(UD)って何？



これまで、身の回りの多くの物や施設は、若くて健康な人が使うことを前提につくられてきました。また、それを不便だと感じるお年寄りや体の不自由な方のためには、その方たちにあったものがそれぞれ別につくられてきました。

暮らしの中の不便さや障壁(バリア)をなくしていくバリアフリーという考え方もありますが、ユニバーサルデザインは最初から障壁となるようなものをつくらなくて、だれもが使えるようにしていこうという考え方です。

つまり、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、さまざまな人を対象に、だれもが使いやすく、暮らしやすいまちづくりや物づくり、環境づくりをしていこうというものです。

ユニバーサル(Universal)すべての人々の、全世界の デザイン(Design)計画、考え、設計 = 頭文字をとって「UD(ユーディー)」

具体的には、どんなものをいうのでしょうか？

簡単でだれもが使いやすい家庭用品や文具、より多くの人々が不便さを感じない施設は、ユニバーサルデザインといえるでしょう。

例えば、公共の施設などにある水飲み場は、高い位置だけにあると、子どもや車いす利用の方などにとっては使いにくいものです。そこで、高い位置と低い位置の両方に水飲み場を設けることによって、より多くの人々が利用しやすいユニバーサルデザインになるのです。



みんなが暮らしやすい社会をつくるキーワードがユニバーサルデザイン

暮らしやすさを向上させるために、県では、次の4つの視点を大切にユニバーサルデザインを取り入れていこうと考えています。

すべての人に簡単



大きくてだれにでも見やすく、分かりやすい表示

すべての人に快適



階段の横に、スロープが「さりげなく」つけられた利用しやすい施設

すべての人に安全



車道、自転車道、歩道の3つの通行区分に分けられた安全な道路

すべての人と状況に柔軟



ボタンや取り出し口が、大人にも子どもにも利用しやすい高さにある自動販売機

建築や交通、日用品や電化製品、情報やサービスなどいろいろな分野にユニバーサルデザインの考え方を取り入れることで暮らしやすさが向上します。

ユニバーサルデザインは、すべての人のニーズ(要求)に応えようとする考えですが、現実的には100%応えていくことは難しいでしょう。でも、それを目指していくことこそ大切なのです。

そのためには、遠回りにみえても、できるだけ多くの利用者のさまざまな意見や要望を聴いて、作り出すもの(製品、建物、環境、サービスなど)に可能な限り反映させるように努力するという「プロセス(過程)」を大事にしなければなりません。

熊本県では、この「プロセス(過程)の重視」をユニバーサルデザイン推進に当たっての原則としています。

みんなが暮らしやすい社会はみんなでつくるもの！

県民の皆さん

暮らしやすい社会とは、私たち一人ひとりの心の中にユニバーサルデザインが息づいている社会です。

行政、企業・団体、県民それぞれみんながユニバーサルデザインの意識を持ち、パートナーシップによってユニバーサルデザインを運動として展開していくことで、暮らしやすい社会をつくりましょう。

行政

普及啓発、導入に向けた支援
行政サービスへの導入



企業・団体

製品・サービスへの
ユニバーサルデザインの導入



ユニバーサルデザイン製品・サービスの利用、改善策の提案



もっと詳しく知りたいユニバーサルデザイン

ここで紹介したようなユニバーサルデザインをさまざまな分野で広めていくためのよりどころとなる指針をつくりました。その内容がわかるパンフレットは、県庁、県地域振興局や市町村役場などでお配りしています。

また、指針の詳細は、県のホームページでもご覧になれます。

県ホームページ ud-kumamoto.rkk.ne.jp/htm/kenkyu/shishinkettei/index.html

お問い合わせ先 / 熊本県企画課 パートナーシップ企画班

1 096-383-1111(内線3621) FAX096-382-4066

電子メール kikaku@pref.kumamoto.jp

知事室から



熊本県知事
潮谷 義子

いつときの雨上がり。水辺に舞うホタルに田んぼではカエルの大合唱。梅雨でも自然は私たちを楽しませてくれます。

この時季、雨が降ると、天気の良い日には感じなかった思わぬ不自由さに出くわすことがあります。路面で滑ったり、傘をささしている電柱と塀の間がすり抜けられなかったり。こんな経験は私だけではないと思います。また、周りの状況だけではなく、人は、視力低下やケガ、赤ちゃんを連れている時など、個人個人で不便さの感じ方が異なっています。

今回ご紹介したユニバーサルデザイン(UD=ユニバーサライゼーション)は、どのような状況であっても、可能な限りすべての人に合った製品、建物、環境などをデザインしていくことというものです。

二十一世紀は、だれもが自らの能力や個性を發揮し、生きていける世紀でなければならぬと思います。そのためにも、私は、このUDの考え方を幅広い分野に取り入れていきたいと考えています。

皆様方も、ぜひUDに関心を持っていただき、一緒になって「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現を目指して参りましょう。